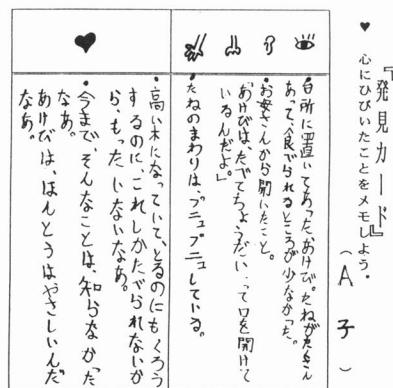


◎ 一人一人の表現様相を把握し、表現の
よさを生かす授業 (4年；国語)

① 表現様相の把握

	題材	技法
H子	○ 母親を題材にした時が多い。	○ 会話を多く取り入れている
S子	○ 空想的な題材が多い。	○ 同じ言葉の繰り返しを使う。

② 「心のアンテナ（五感）」による発見カードの活用



③ 相互評価カードによる気づきと発見の累積・活用

～A子～友だちの詩を読んで、工夫しているなあ、上手だな
～B子～よいところだより
わたしは、A子さんの詩を読んで、お母さんが「食べべてもうだい、って口を開けたんだよ」と言うところがどこかうしはあけびを見ました。そのわけは、お母さんはあけびをしながら、最後の行を読んで、A子さんのよだれをよく分かりました。

④ 考察

- 心のアンテナによる「発見カード」の活用は、詩の学習のみならず、理科の学習や読解の学習にも効果的である。
- 一人一人の表現様相を把握しておくと、教師の発問や参考作品の提示等、支援がしやすくなる。

4まとめと課題

研究に取り組んでからまだ2年で、まだ深まりのある研究になっていないが、何か方向性のようなものが見えてきた感じである。また、「学習過程の工夫」についても研究は進めてきたが、スペースの関係で掲載することは省略した。今年度は、次の各点に留意しながら、3つの研究の視点についてさらに研究していくと考えている。

- 学力検査の効果的活用とコンピュータの導入
- 新しい学力観に立った学力の定着度と一人一人の変容把握